



【6月の気象】

1年のうち、降水量が最も多いのが6月で、平年では四国地方は梅雨の時期に入ります。梅雨は、東アジアだけにみられる現象で、春から盛夏への季節の移行期に、一般的には、日本から中国大陸付近に出現する停滞前線（梅雨前線）が、南北振動を繰り返しながら沖縄地方から東北地方へゆっくり北上します。

暖かく湿った空気が、梅雨前線に流れ込むと、梅雨前線の活動が活発化し大雨が降りやすくなり、集中豪雨などで、災害をもたらすことがあります。また、前線が長く停滞すると低温や日照不足で農作物に被害が発生したり、一方で、梅雨前線の活動が弱く空梅雨になると、盛夏期に水不足となることがあります。

四国地方の梅雨入りは、平年が6月5日ごろで、昨年は5月12日ごろでした。下の表は梅雨入りが早かった年と遅かった年の記録です。

四国地方における梅雨入りの記録（1951年～）				
早い記録		遅い記録		
1	2021 (R 3) .5.12 ごろ	1	2019 (R01) .6.26 ごろ	
2	1991 (H 3) .5.19 ごろ	2	1967 (S42) .6.21 ごろ	
	1976 (S51) .5.19 ごろ	3	2017 (H29) .6.20 ごろ	
4	2011 (H23) .5.21 ごろ	4	1969 (S44) .6.17 ごろ	
	2001 (H13) .5.21 ごろ	5	2010 (H22) .6.13 ごろ	
			2007 (H19) .6.13 ごろ	

【気象用語】「1日の時間細分」とは

今回は「1日の時間細分の用語」を説明します。府県天気予報に使用する用語は1日を3時間ごとに区切って決めています（1日の時間細分図、参照）。

- 未明：午前0時から午前3時頃まで。
- 明け方：午前3時頃から午前6時頃まで。
- 朝：午前6時頃から午前9時頃まで。
- 午前中：一般には午前0時から正午までだが、5時予報、11時予報の「今日」の予報では、発表時から正午までの期間に対して用いる。
- 昼頃：正午の前後それぞれ1時間を合わせた2時間くらい。
- 昼前：午前9時頃から12時頃まで。
- 昼過ぎ：12時頃から15時頃まで。
- 午後：12時から24時まで。
- 夕方：15時頃から18時頃まで。
- 日中：午前9時頃から18時頃まで。
- 夜のはじめ頃：18時頃から21時頃まで。
- 夜：18時頃から翌日の午前6時頃まで。府県天気予報では日界が24時のため、18時頃から24時まで。
- 夜遅く：21時頃から24時頃まで。

